資料４

次期ごみ処理施設の検討状況について（報告）

明石クリーンセンターは、平成１１年に供用開始してから、今年度で１９年目を迎え、経年劣化が進んでいることから、今後、ごみ処理能力を維持していくためには、多額の保全工事費・修繕費が発生する見込みです。

一方、一般的にはごみ処理施設を建設する場合は、意思決定後に約１０年程度の期間を要すため、現在のごみ処理施設は、一般的な建替時期とされる築後２０年を大幅に超える稼働期間となることが確実な状況です。

つきましては、次期ごみ処理施設の建設に向けた検討状況について、先般開催されました１２月の生活文化常任委員会において、下記のとおり提出しましたので報告いたします。

１．検討の方向性について（委員会報告抜粋）

現明石クリーンセンターは、経年劣化に伴う老朽化が進んでおり、これ以上の延命化は、維持費用や故障リスクの増大が予想されることから、建て替えに向けて検討を進めて参ります。また、次期ごみ処理施設の建設場所は、広大な敷地が必要なことから、最終処分場が近い旧大久保清掃工場跡地（現クリーンセンター敷地内）が最善策であると考えております。

また、より一層の市民負担の軽減を図るため、国庫交付金制度の時限措置などを利用できるよう早期に事業着手していきたいと考えております。

２．今後の取り組み

引き続き処理施設の規模や維持管理方式の検討などイニシャルコストやランニングコスト削減に向けた調査・研究及び耐震強化や環境学習設備など機能面についての検討を進めてまいります。

また、第 61 回環境審議会におきまして本審議会のお知恵を拝借して参りたいと申し上げました「多くの市民に利用される多機能型施設についての検討」につきましては、引き続きご意見・お知恵を拝借して参りたいと考えております。

以　上